

2014年衆院選

何が起きたのか？

前回、昨年末におこなわれた衆議院議員選挙投票前の候補者アンケート結果を当選者のみで集計した結果を紹介しました。

集計方法

朝日新聞社の「朝日・東大共同調査」における候補者アンケート結果から (参考資料①)
当選した候補者のアンケート回答のみを私が集計

小選挙区での当選 : 295人分

比例区との重複立候補で比例区当選 : 121人分

合計 416人分の集計

(比例区のみで立候補し、当選した59人は含まない)

比較のため2012年衆院選での同じアンケート結果も同様に集計 (参考資料②)

小選挙区での当選 : 300人分

比例区との重複立候補で比例区当選 : 125人分

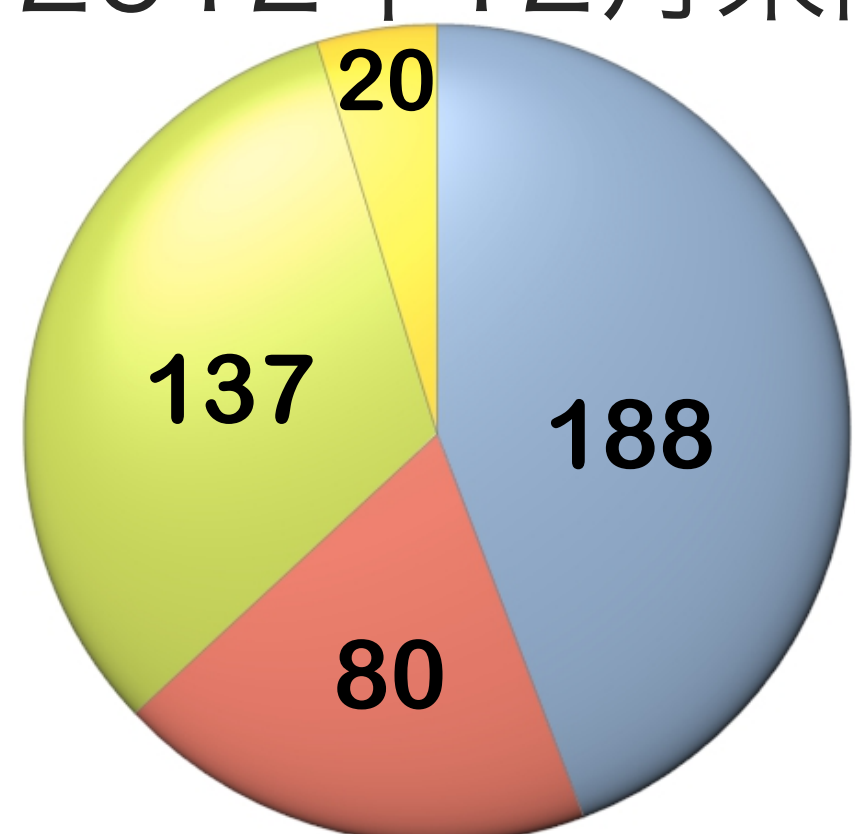
合計 425人分の集計

(比例区のみで立候補し、当選した55人は含まない)

数だけ見ると原発推進の考えの人が激増している、という内容だったのですが、今回はさらに各個人に注目し、「激増」の内訳を細かく分析してみました。

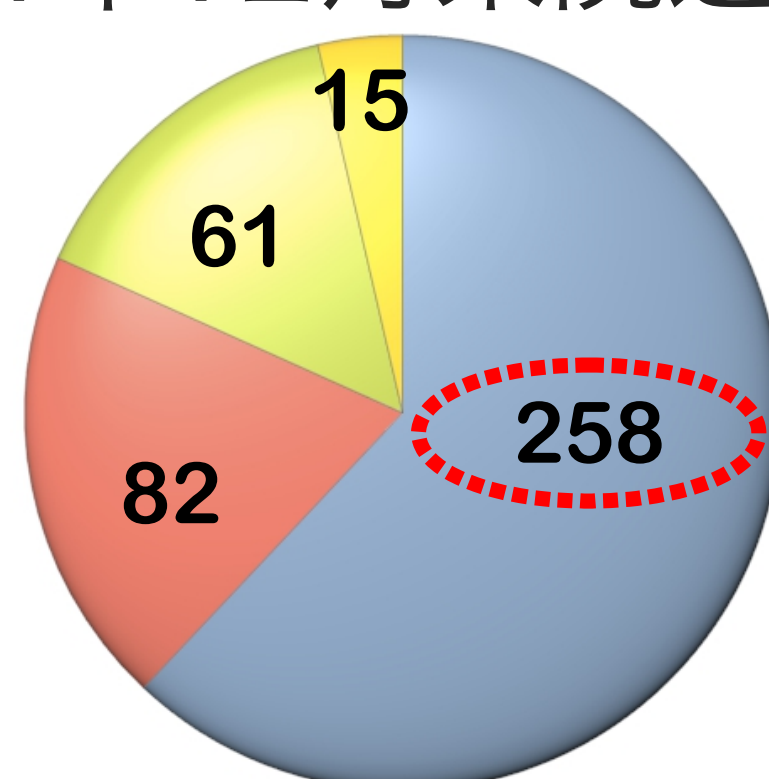
原発再稼働

2012年12月衆院選



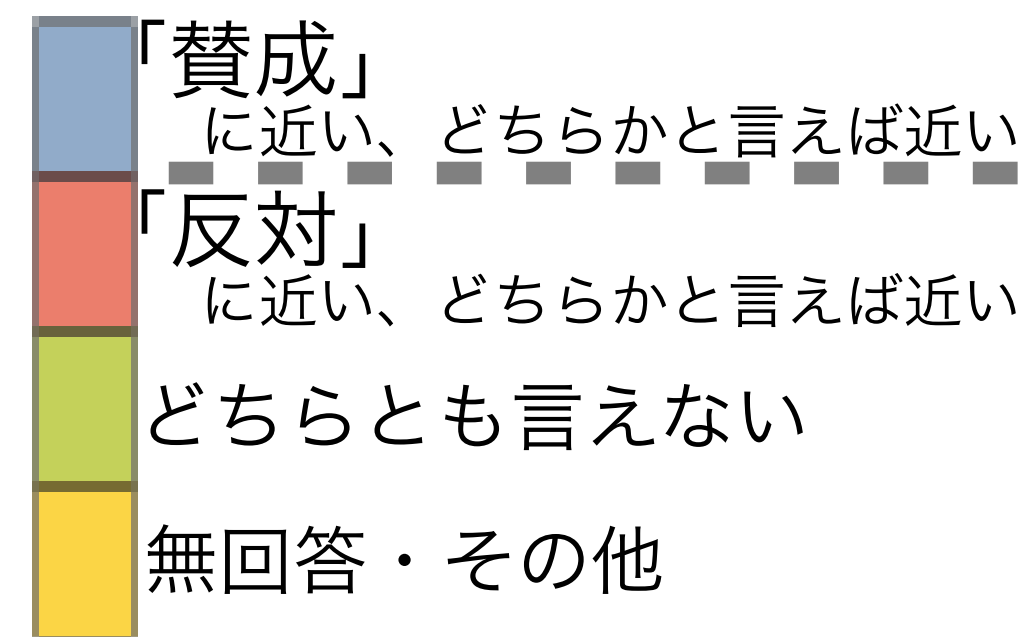
定期検査で停止中の原子力発電所の
運転再開はやむをえない

2014年12月衆院選



原子力規制委員会の審査に合格した
原子力発電所は運転を再開すべき

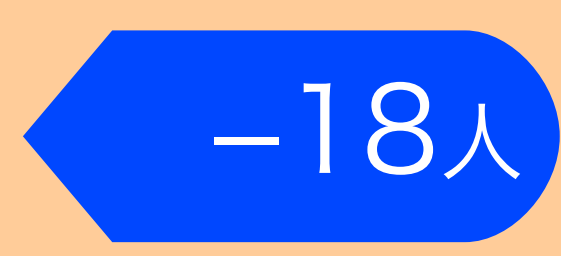
再稼働賛成
70人増



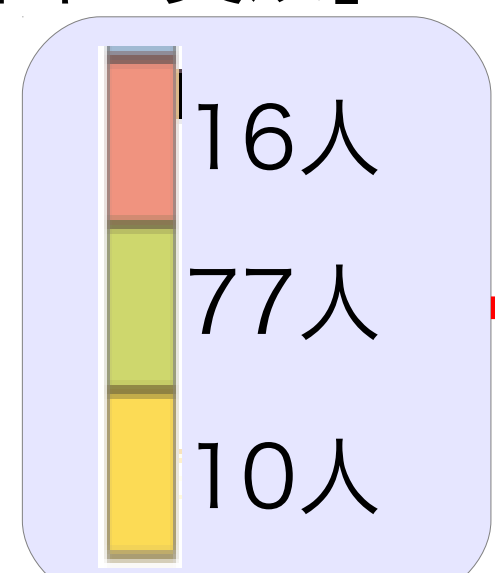
2012年当選時「賛成」で
今回それ以外に変わった人



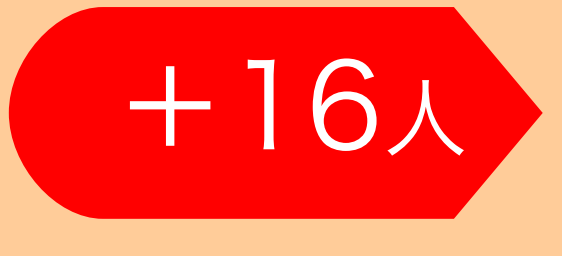
2012年当選時「賛成」で
今回落選・不出馬の人



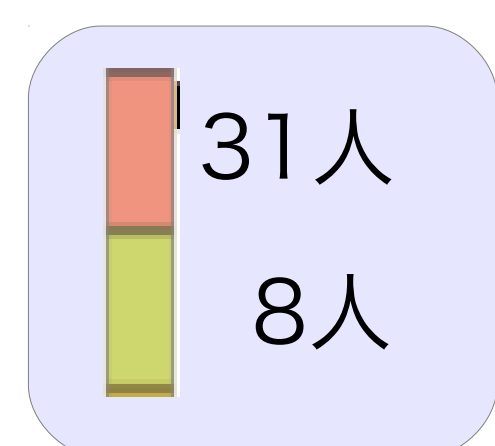
2012年当選時
「賛成」以外で
今回「賛成」に変わった人



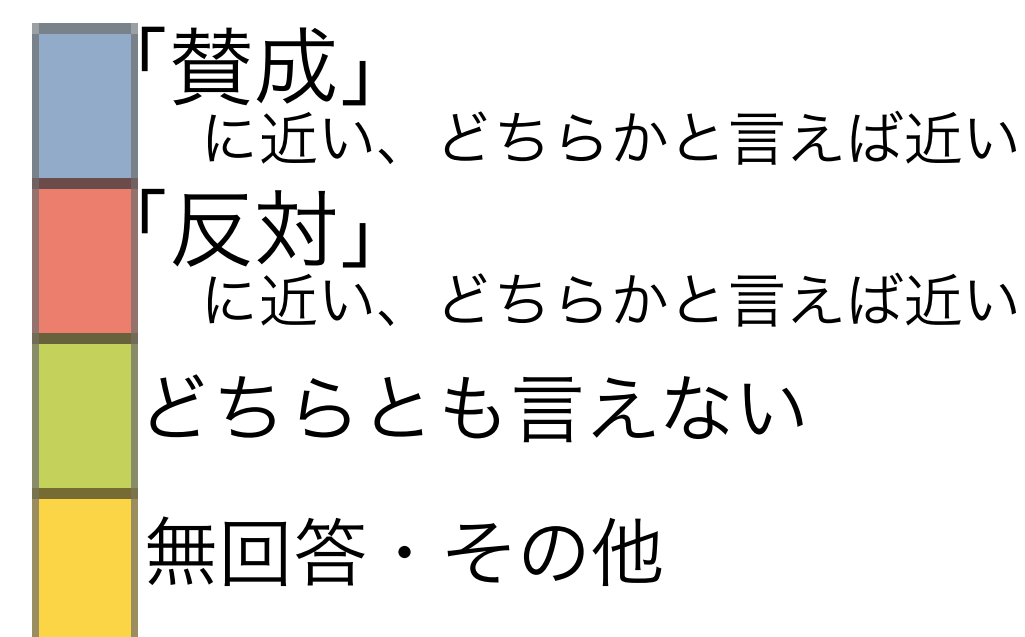
2012年当選時回答内訳
→何から「賛成」へ変わった？



2012年は
当選していない人のうち
「賛成」の人



2014年回答内訳
「賛成」以外

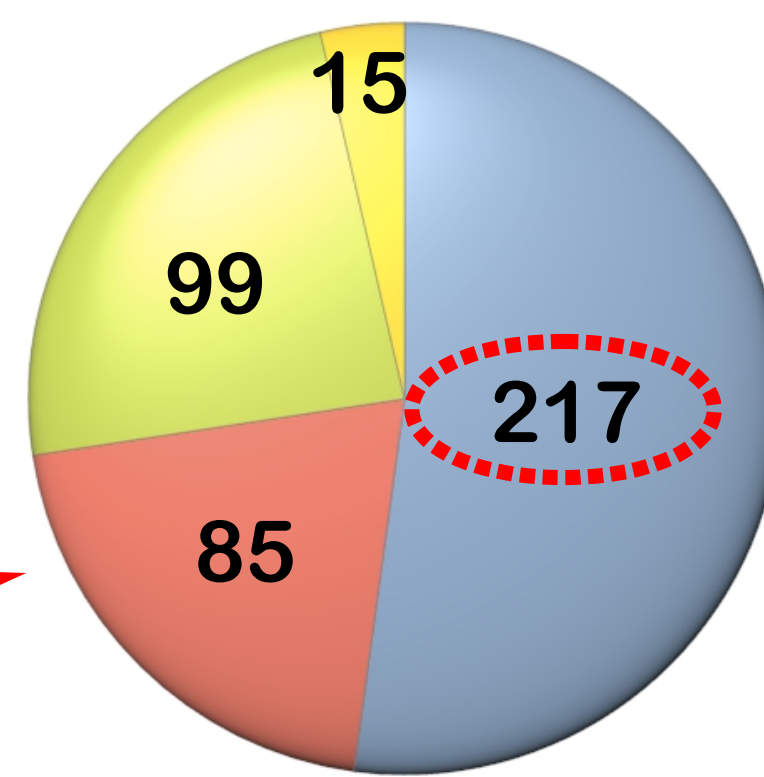
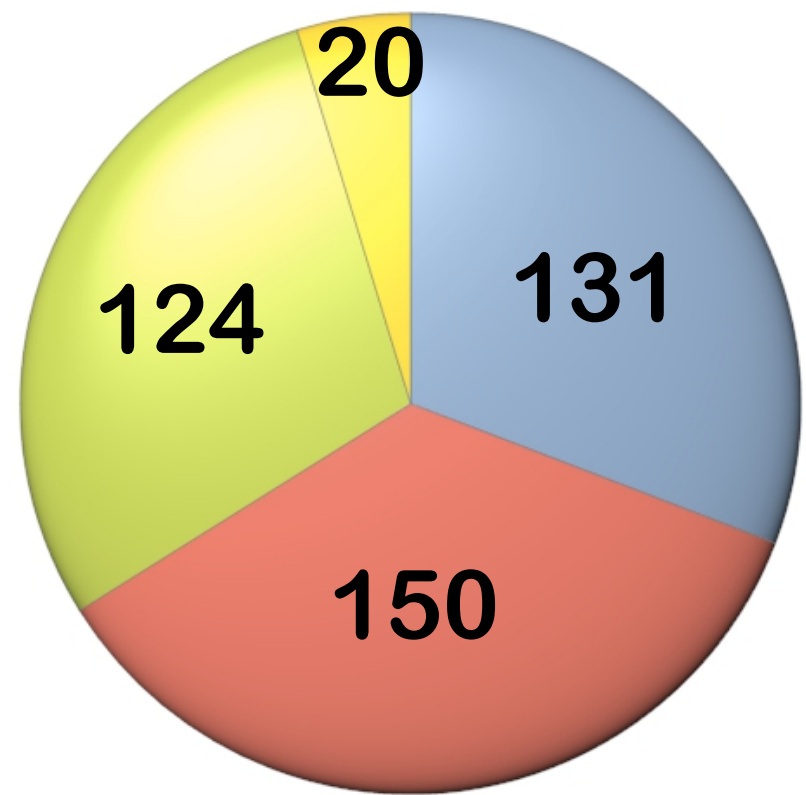


2014年回答内訳
→「賛成」からどう変わった？

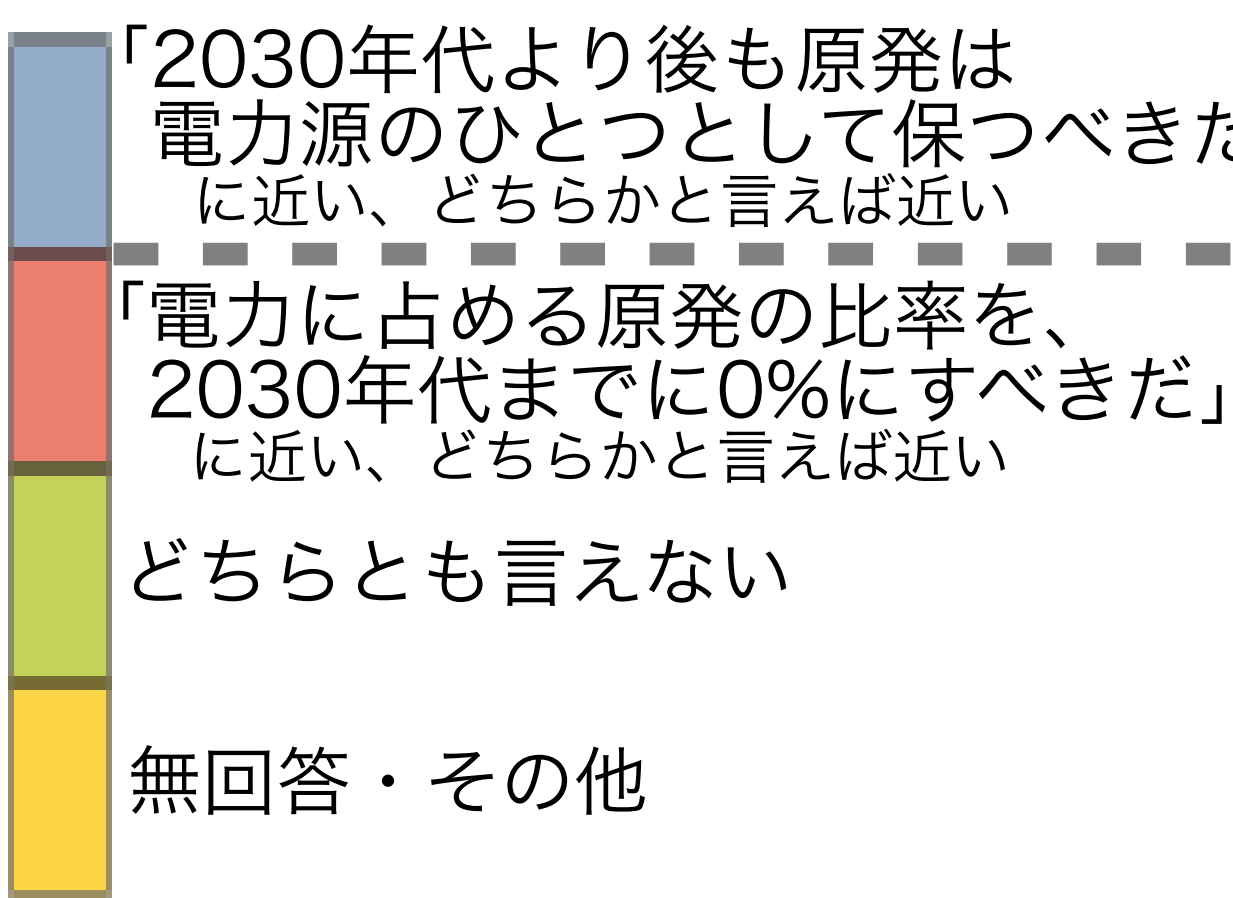
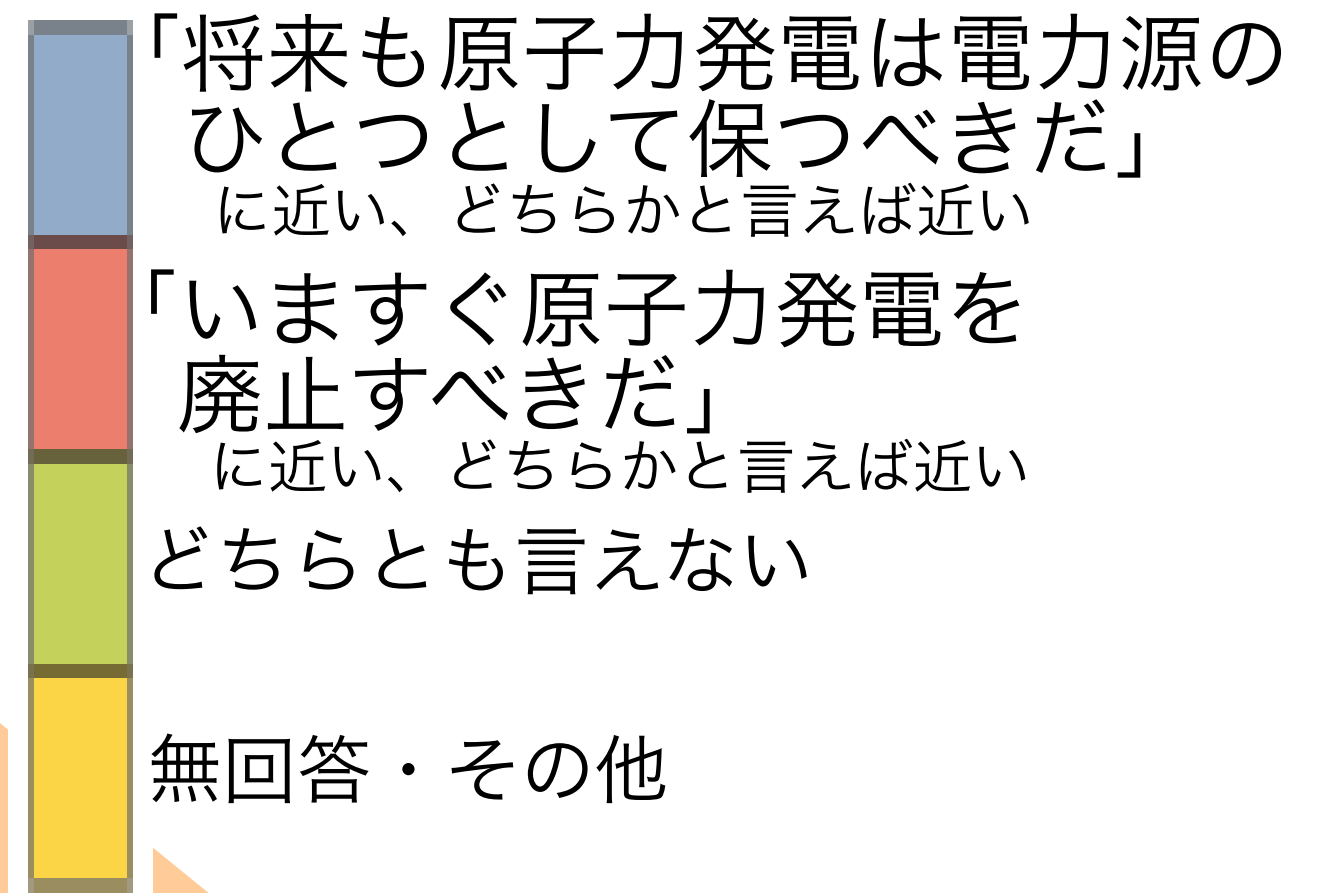
原発ゼロか存続か？

2014年12月衆院選

2012年12月衆院選



原発存続
86人増



2012年当選時「存続」で
今回それ以外に変わった人

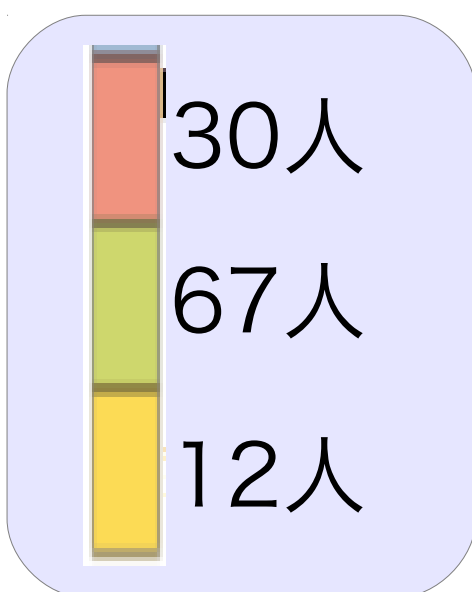
-28人

2012年当選時「存続」で
今回落選・不出馬の人

-9人

2012年当選時
「存続」以外で
今回「存続」に変わった人

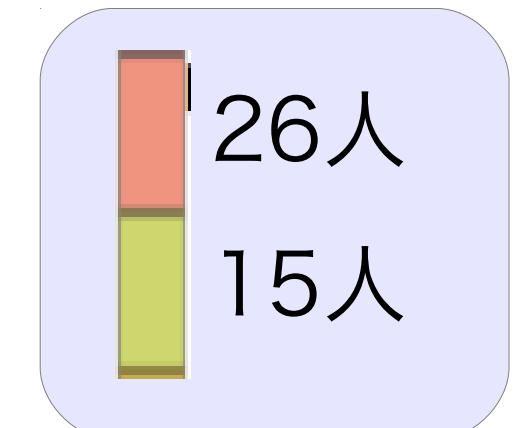
+109人



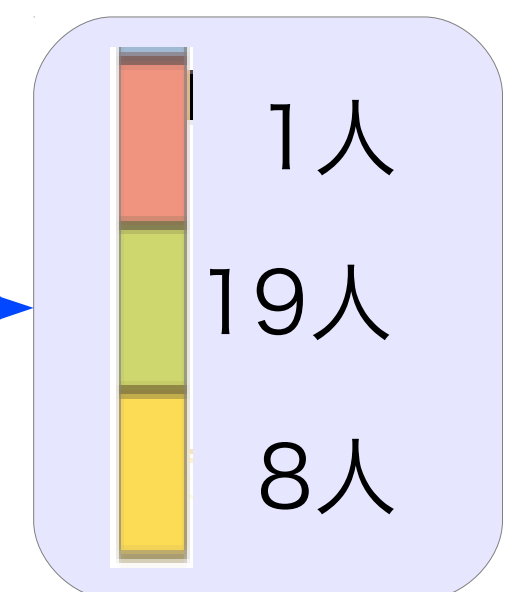
2012年当選時回答内訳
→何から「存続」へ変わった？

+14人

2012年は
当選していない人のうち
「存続」の人



2014年回答内訳
「存続」以外



2014年回答内訳
→「存続」からどう変わった？

少しだけ感想を

アンケート対象者のうち2012年、2014年の両方に当選し、このアンケートに答えているのは361人。そのうちの100人超が原発推進の方へ考えを変えています。その6~7割は元々「どちらとも言いえない」と答えていた人です。

迷っていた人の背中を押したのは何か？と考えた時、再稼働の方針をはっきり打ち出し、原発を『重要なベースロード電源』とした「エネルギー基本計画」の存在が大きいような気がします。あまり深く考えていなかった人の考え方の根拠となってしまったのではないのでしょうか？

そうだとすると、明確な信念なしに、周りの空気考えを変えている人ばかりとも言えるかもしれません。そんなので国の方向が決まっているのは悲しいことです。国会事故調の提言を読み直し、その1つ目である「規制当局に対する国会の監視」をまず肝に銘じて欲しいです。

参考資料

- ①朝日・東大谷口研究室共同調査（2014衆院選）
<http://www.asahi.com/senkyo/sousenkyo47/asahitodai/>
- ②朝日・東大谷口研究室共同調査（2012衆院選）
<http://www.asahi.com/senkyo/sousenkyo46/asahitodai/>